

株価下落で始まった24年のグローバル市場



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 24年のグローバル市場は株安スタート

23年のグローバル市場は、インフレ鈍化と各中央銀行の今後の利下げ期待などから、株式をはじめとしたリスク資産を見直す動きが強まった1年となりました（右上図）。とりわけ生成AI（人工知能）の普及本格化による業績拡大期待を背景とした米ハイテク株や、脱デフレや企業改革の進展期待が高まった日本株の上昇が目立ちました（同図）。

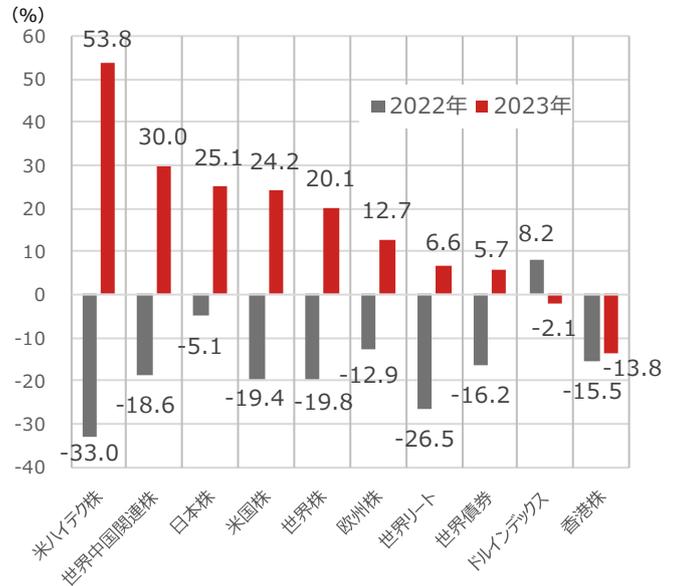
24年のグローバル市場は、昨年の主役だった株式を売る動きが優勢で始まりました。主力ハイテク株で構成されるNASDAQ100は3日までに4営業日続落となり、24年の2営業日だけで2.7%下落し、米大型ハイテク株で構成される、いわゆる「マグニフィセント7」の時価総額は直近4営業日で3,800億米ドル超も減少した形です。

ポイント② 世界の投資環境は良好さを維持

もっともこうした動きは、米金融政策の転換を見込んだ昨年末までの投資家の過度なリスクテイクの反動ともいえ、冷静に対処する必要があると考えられます（右下図）。

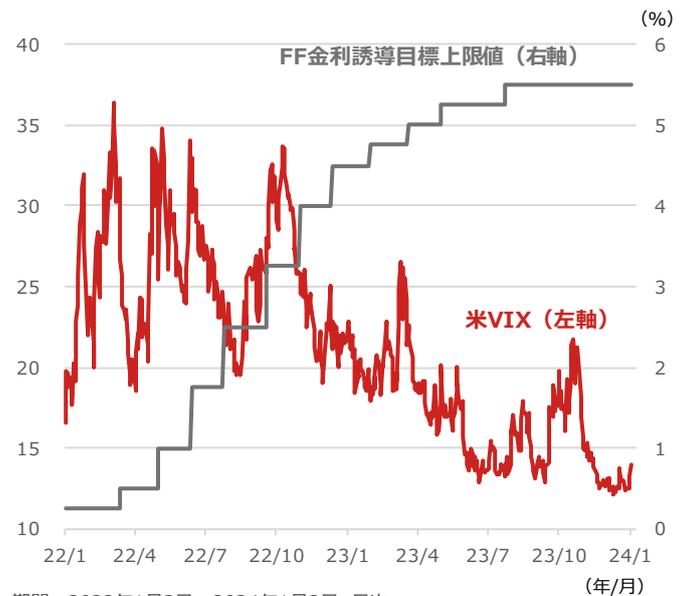
FRB（米連邦準備制度理事会）が金融政策を行なう上で重視するPCE（個人消費支出）コア物価指数（23年11月分）は、6か月間の変化率の年率ベースでは1.9%の上昇にとどまるなど、米国のインフレ鈍化は着実に進んでいます。世界の企業の業績動向をみても、日米を中心に主要株価指数の12か月先予想EPS（1株当たり利益）の伸びは続いており、企業業績を取り巻く環境は引き続き良好と考えられます。世界の投資環境が昨年から大きく変化していないことを考えると、足元の動きは利益確定売りの側面が強いとみられ、世界的な株価の下落は一時的といえるのではないのでしょうか。

2022年と2023年の世界主要指数の年間騰落率



期間：2022年～2023年
 ・米ハイテク株はNASDAQ100、世界中国関連株はMSCI World with China Exposure Price USD Index（米ドルベース）、日本株はTOPIX（東証株価指数）、米国株はS&P500種株価指数、世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）、欧州株はSTOXX欧州600、世界リートはS&P Global REIT Index（米ドルベース）、世界債券はBloomberg Global Aggregate Index（米ドルベース）、香港株はハンセン指数（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米VIXとFF金利誘導目標上限値



期間：2022年1月3日～2024年1月3日、日次
 ・FF金利はフェデラル・ファンド金利
 ・米VIX（ボラティリティ・インデックス）とは米シカゴ・オプション取引所が、S&P500種株価指数を対象とするオプション取引の変動率を元に算出、公表している指数。一般的に同指数の数値が高いほど、投資家の先行き不透明感が強いとされる。（別名：恐怖指数）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。